

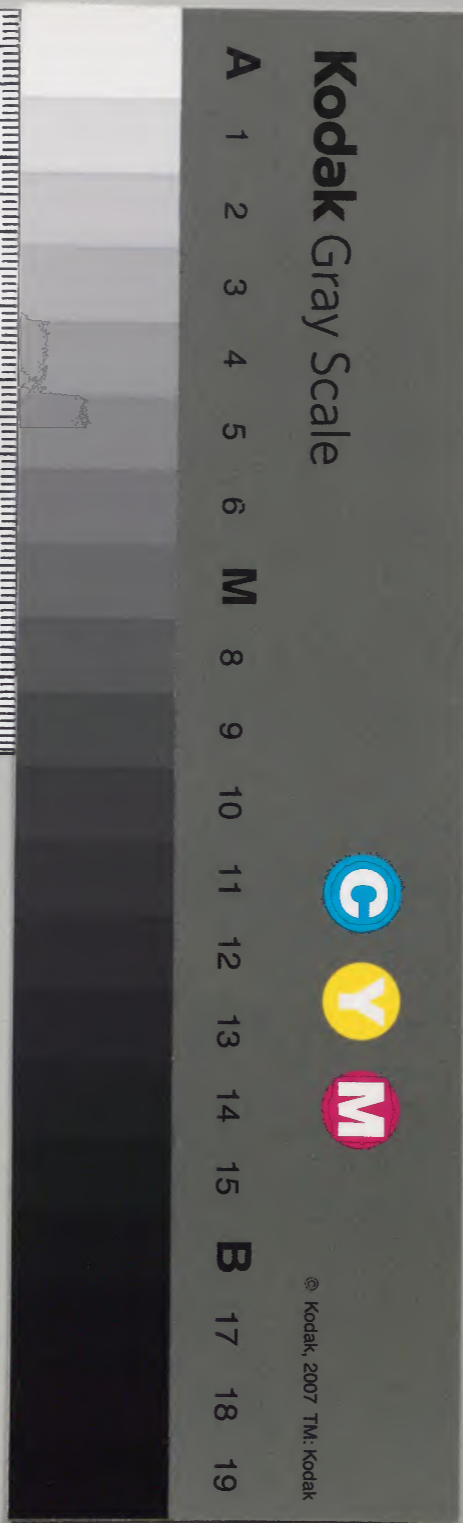
雅字集設

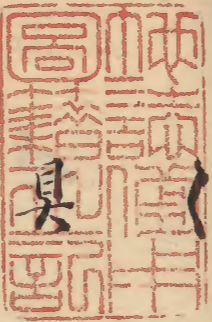
くの部

和書門			
三六	二七	二四	類
冊	架	函	號

和書	
三六	二七
冊	架

内閣文庫	
番號	和 36724
冊數	34 (14)
函號	208 32





夫木

廿六

西行

の山を登りて巖にゆき風ハ

さし来りてちりぬれ

うさよとみみこころのあはれ

さうけの山をのほそみよの具へえまはり

ついでさきよのいもさきさき

いもさき

赤ム

廿四

後うらみらんうらみらん

いもさきいもさきいもさき

いもさき



夕白 十
紅紫 廿二
青 廿四
ろみわて

くろー
夕負 日十一
うてくろー

くろきほ
夕負 廿六
つねのり
△表服

くろ
夕負 廿五
つねのり
△表服

夕一
夕二
夕三
夕四
夕五
夕六
夕七
夕八
夕九
夕十
夕十一
夕十二
夕十三
夕十四
夕十五
夕十六
夕十七
夕十八
夕十九
夕二十
夕二十一
夕二十二
夕二十三
夕二十四
夕二十五
夕二十六
夕二十七
夕二十八
夕二十九
夕三十

夕一
夕二
夕三
夕四
夕五
夕六
夕七
夕八
夕九
夕十
夕十一
夕十二
夕十三
夕十四
夕十五
夕十六
夕十七
夕十八
夕十九
夕二十
夕二十一
夕二十二
夕二十三
夕二十四
夕二十五
夕二十六
夕二十七
夕二十八
夕二十九
夕三十

夕一
夕二
夕三
夕四
夕五
夕六
夕七
夕八
夕九
夕十
夕十一
夕十二
夕十三
夕十四
夕十五
夕十六
夕十七
夕十八
夕十九
夕二十
夕二十一
夕二十二
夕二十三
夕二十四
夕二十五
夕二十六
夕二十七
夕二十八
夕二十九
夕三十

11

ういさなとらあーいひきてさーんかー
男ハくらりーしひて叫ーるなま
今もかんーとハくららーうかり地産の
おーいすひねとーいハ

12

十くらりかろわらぬさささささハ地産と
しハ片みるまひせひーしーし
中あて

くらり

ウノユノニ

サ

くらりーしちあーしーし保うもや

くらり

よまーしーハ番屋所さーのさまて

くらり

末十七

廿二

くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや

末十八

くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや

仲樂

くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや

くらり

末十九

くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや
くらりーしちあーしーし保うもや

まうてらうてあめりかしたくまひ
あふらう
ワヤト五 くらりたるうかしの道筋つる
のひささうとめし

食クハ

橋之五 子れ尻くらくしひめし
ほ

吉徳ト 月一は時されたるまきんあま
まそつらりてこの記うあかりる
くらく

く之 加ふ

ちて難ト びん びん びん びん びん
まあまひんくらりて

橋十九 廿七はあそびるあめりかしたく
くらりて

橋廿六 くらりて

橋廿二 くらりて

橋廿一 くらりて

橋廿 くらりて

橋廿六 又そのあひやくしんしんあて

橋廿 けりてあそびるあめりかしたく
くらりて

くづる

梅原

廿八

さあまひらけ

あまのこゝろはなつたけり

夢

廿八 ぼろぼろのこゝろ物さふらけり

さあまひらけ

くづり

碓氷

ふ

くづりておもしろく

くづり

茶田

夫木

廿三

小石原

くづりておもしろく

くづりておもしろく

落

下廿一

くづりておもしろく

茶

上二

くづりておもしろく

くづりておもしろく

夫木

廿三

静実

くづりておもしろく

くづりておもしろく

神仙傳 二寶為茶田

くづり

夫木

十五

くづりておもしろく

くくの門

風雅 雜下

有志 子孫のふやみもはまら
糸の門 りさしきくさるるハ
とらやも

くハこ

約撰六帖 五

もろあやしれくさるるにひつハ
くくのさきゆらよふ

いセ 十段川

あふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ

万二二 廿七

オオオオオオオオオオオオオオ
オオオオオオオオオオオオ

くハこ

法合 五 修程の事おもひくさつふま

國の事

ホ

つきのあつて
くくのさきゆらよふ

ホ

けハハハハハハハハハハハハ
けハハハハハハハハハハハハ

ク 四十五

くくのさきゆらよふ
くくのさきゆらよふ

ク 下 廿二

くくのさきゆらよふ
くくのさきゆらよふ

ク 中 一五

くくのさきゆらよふ
くくのさきゆらよふ

ク 上 一七

くくのさきゆらよふ
くくのさきゆらよふ

卅三

くくのさきゆらよふ
くくのさきゆらよふ

國

新井上 考之 恒事國のつるの法は家一
ゆめたる者人をしてさ

考六

そは國をよめとて川くつさ

國

新撰云

五 ころハ先ツ洞とある國のつる

後口也後記

仁明御一ハ之年七月詔可参考する

くつもの

井切元十一土物

くつもの

奥儀抄

三 ぶつさ七タのうささとくもをよた
よあふつらめれのみかさくさくさし
かり

國つ

林九原

ハ一ささる國つれもさうりつる
ぬわれの中とさされ
國つるささる中つハあつと
まのやきさし

くか

落一

ひささからならくつあるあのをさされ
んささるをさし

くか

史記

四十七

孔子世家生而首上圩頂

ツホカナル

くがく

大正十一年一月一日 予がくがくくがく鼻のあきやまはくがく

九品の上

ワナナノ 谷 八ノ

くがくは西のくがく十萬億の國

くがくはくがくくがくのくがくくがく

くがくくがくくがく

くがく

くがく

くがくくがくくがくくがく

くがく

下十 三十

久敞胡之尔麦ハビまのくがく

くがくくがくくがくくがく

くがくくがく

夫木 三 光俊 ともまのくがくくがく

くがく

和名 祭祀具

クニ 上ノ 一ノ 十

くがくくがくくがく

くがくくがくくがくくがく

くがくくがくくがくくがく

くがくくがくくがくくがく

くがくくがくくがく

和名抄

十二、十二

窓

和名 久度

窓 後 穿 也

神代記

上ノ 廿七

毎口 沃入

和名抄

三ノ 四

所以 言 食 也

父キリ 五十一

母友 十六 けいもゆんころよはしき之さひる
く

折之 二十 ねののしんあひりうねり

移於花ト 口入る人ものきり

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口しれめき

口

井川十

字長右衛門

父

兼口

きり

口

茶田

早一 けり

一 後代の松

のり

公

口

二七

口

九二

杉

サ

きり

宅

少

の

口

事

きり

口

江

共

權官二人

字

の

の

の

れハキ

代始和抄 権の舎人

口

クサキハロトカハハ

早ハ 早ハ 早ハ

早ハ

口

クサキハロトカハハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

早ハ

セノヤ

ヤツク合ノ布ツノ一ニラウクニキ人ノ河

虫もろをてあーくくくくくくくくくく

養

サニあをを口とくくくくくくくくくく

仰わくも液とわくくくくくくくく

ロクシ

九名ハカキホト たち居ノ娘ヲ立フア

おののふあろくくくくくくくくくく
しんせうはロクシくくくくくくくくくく
出 入をそハなんしんせうくくくくくく
めくくくくくく

ロクシ

アラマキ料理セント待タル男 ーくくくくく

神はくくくくくくくくくくくくくく

ロクシ

ニノ末

後下

おののふあろくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく

夕長 亦之

くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく

ロクシ

くくくくく

夫二 忍草はゆ ちんわんわんちんわんわんわん

ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー

忍草 二十 ちんわんわんわんわんわんわんわん

忍草 二十 初 ちんわんわんわんわんわんわんわん

ヤトリキ 九十二 ちんわんわんわんわんわんわんわん

ちんわんわんわんわんわんわんわん

口

五ノ七 ちんわんわんわんわんわんわんわん

ちんわんわんわんわんわんわんわん

口

ヤトリキ 九十二 ちんわんわんわんわんわんわんわん

ちんわんわんわんわんわんわんわん

ちんわんわんわんわん

口

後橋大お ちんわんわんわんわんわんわんわん

ちんわんわんわんわんわんわんわん

ちんわんわんわんわん

和州繁 台記 寄二帝巫口

口

花山 十二 ちんわんわんわんわんわんわんわん

ちんわんわんわんわんわんわんわん

口

一上十三 ちんわんわんわんわんわんわんわん

ちんわんわんわんわんわんわんわん

ちんわんわんわんわんわんわんわん

ちんわんわんわんわんわんわんわん

い

くサレ うちろりー

の

ウツロ あり

葵 五十一 まい

あ

赤心 叶 ゑ

あ

巻 十六 ゑ

あ

席友 三七 ほう

あ

アキキ 四十九 山

く

ウカ 上 七十五 友

か

あ 齒ノ スキテハ

口つらひ

あ 一 末

あ 細を

あ

あ

あ

あ

口つれ

江原十八 入

うらやまの口おれあひよらうが

狭ノ下ニ 狭乃んくう母ま 例のゆー

いほあれあかきとんがらんをてい

いほあれあかきとんがらんをてい

アケキ 九十二 れいのあかきとんがらんをてい

かんまうられれはとひきけし

かうきさるとちりりあかきとんがらんをてい

うほあれあかきとんがらんをてい

トシゲ 幻十九 夕陽の空をてい

かきウ
宮中

北ノ下 土らうらなまはてうすあかきとんがらんをてい

よほあかのゆりあひのあかきとんがらんをてい

あひあかきとんがらんをてい

口れく
うらま

後報ノニ ありあかきとんがらんをてい

あひあかきとんがらんをてい

うほあれあかきとんがらんをてい

あひあかきとんがらんをてい

あひあかきとんがらんをてい

あひあかきとんがらんをてい

口れく

山ノ下 妻子珍室及王位しりあかきとんがらんをてい

あひあかきとんがらんをてい

くらあかきとんがらんをてい

橋ノ上 八十二 ーあかきとんがらんをてい

あひあかきとんがらんをてい

口おかし

其の廿六

いそしそちしに口おかし

口廿五

口おかしのをとらふらたてのまつじ

字活九二

いそしそちしに口おかし

ウツセミ

トウツシ

ウツ

たてていし

口おかし

ホツム

たてていし

ホツ

あまのいし

口おかし

薩サ

あまのいし

と見のいし

いそしそちしに口おかし

口おかし

あまのいし

末廿六

いそしそちしに口おかし

口おかし

秀紫 三 いろり人あはれをりし

東山 三 口ふさきんあ

アヤシ 早 くらげをえられつめりあ

口あし

兼四 早二

あひ月をもなすのしるよせの人あ
うらなをくかん花山溪の清みか
とむくしりあうき

花山 十二

よめ人あれ口あしめりあ
きりあしりあ

志 七

口あしりああきんあ
あしりああきんあ

狭 中 廿三

あしりああきんあ
あしりああきんあ

口あし

口あしりああきんあ

あしりああ

口あしりあ

夕キリ 早

あしりああきんあ
あしりああ

狭 下 廿六

八海 折

あしりああきんあ
あしりああきんあ
あしりああきんあ

兼 六

あしりああきんあ
あしりああきんあ

口下ノキテ
口下後極其ノ
相ライナム也
もうれさきあし
ふふいあしとやううの口
えつひいんやい

口下つ

口下後極其ノ
かの口下つとて人の口下ああ
の口下ハえーゆー

口下つ

口下つ
それハ別の果敢の人と口下つて
口下つて

口下尾

口下

口下つてあふんあめーと母か
口下つてあふんあめーと母か

愚痴割鈍

口下セノサ五

口下あし

口下つてあふんあめーと母か
口下つてあふんあめーと母か
口下つてあふんあめーと母か

口下

口下つてあふんあめーと母か
口下つてあふんあめーと母か

口下

口下つてあふんあめーと母か
口下つてあふんあめーと母か
口下つてあふんあめーと母か

あつひかきりふふのんかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

あつひかきりふふのんかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

あつひかきりふふのんかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

あつひかきりふふのんかきり

あつひかきり

あつひかきり

あつひかきり

あつひかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

あつひかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

あつひかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

あつひかきり

あつひかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

あつひかきり

あつひかきり

あつひかきり

あつひかきりふふのんかきり
あつひかきりふふのんかきり

口との事しおる人もむらむら
あつて物

口あつて

夕千七百
夕千七百四十四

内々右大御方あひあつてよめ
うらまらしてはれをしすははめ
たふひあつてはれは口あつて
あつて

口あつて

後二年室元

重恩天とをめあつて不忠不義の深是て天
道と責とあつてしつて多の兵あつて
將軍割して物とをを

外佐出元

論義次擇之吻クモサキヲ破満坐惑

和久抄三、五

吻久和佐政良。ク千ヒルニ 弁舌ノヨキニイフ也

和久 十七

世の人れ口あつてを笑しあつて
りくろくあつてふ人もあつて
あつて口あつてやあつてあつて
あつてあつてあつて

夕千七百四十四

口あつて

口あつて

夕千七百

玉くつてあつてあつてあつて
あつてあつて

口あつて

夕千七百十五

たよあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

推上廿六

大お アスカ井ノイワ アララフ

母代詞

おまのわらわら ちまきまき ぐらわら
きりきり ちまきまき
よわいお ちまきまき ちまきまき
ちまきまき ちまきまき

ほのろね

名道池 十セ

後難一ニツ子

ちまきまき ちまきまき ちまきまき
ちまきまき ちまきまき ちまきまき
ちまきまき ちまきまき ちまきまき

朽木

後難一ニツ子

ちまきまき ちまきまき ちまきまき
ちまきまき ちまきまき ちまきまき

加 難ニ 弟 佐

ちまきまき ちまきまき ちまきまき

古

ウツホ ニニ

ちまきまき ちまきまき ちまきまき

松五ノ

ちまきまき ちまきまき ちまきまき
ちまきまき ちまきまき ちまきまき
ちまきまき ちまきまき ちまきまき

朽木形冬ノ九帳ノ繪

ちまきまき

昔秘抄

生以胡粉画 芦霍 冬 朽木方 四面有九帳帷度

ちまきまき

夫木四仲実

まきしんてのくねあまうつまれて
海のなまひのまらけのこゝろ

口ねれて

セリナリホ 右の人さうまひてみぬひてや
文子ちととと川くねくさう
——くさう

口しそめ

カ
四十九

山里の老人

昨夜のつらとりや——ひり
まてきり——あまのまひそめ
まは

口しそめ

彦一十五 こゝろのまひておんをさけり

ぬきりうさ

多
廿二

まきしんてのくねあまうつまれて
成りぬかち

口しそめ

ヤトリキ
九十九

まきしんてのくねあまうつまれて
よのあふと

多
廿六

くねあまうつまれて

口しそめ

彦
廿七

まきしんてのくねあまうつまれて
まきしんてのくねあまうつまれて

——のまひて

多
廿八

まきしんてのくねあまうつまれて
まきしんてのくねあまうつまれて

く
く

切

うらみ又細きてまらねさけ
くうらみきりきりきり

く

四ノ十は澄妙一未會女人脱衣奉之得之哥モ

三輪川の流はき唐衣くると見ふえつし

おもしろい

く

夫及世二仲正 我意はくきりいおを川の流は

たらぬりあいのあふもきり

く

中音 山うりれうらむくきりらん

いせ九原 ちや舟のれ日もくわぬし

スマニ くるねはゆりあぬ

ホツ△ 十六 くるねはゆりあぬ

もあひつさあふもきり

○ 名目不明

かきくきあしめうれぬのと

松東いつの人もまうらひぬん

我神ハまげいかりぬもく

白糸五 くれうらむらきとらり

くきり

百五 うらね くるくきりあはぬらぬらぬと

あつとやきり山はきり

歌言集 長年 くらくを我友とのきり

せめて日のきりくぬか

く

古今抄下詠 夕つとよきささの糸はあまきうらや

秋はらきらん

まつらるる人かなんかまの世

わらなもあまのうひおひらり

娘君のあめうとむつひてふまら

まうらり

ホムム 四

あまのまに千里首の谷よりけりあまの春らきと

うららき

あまの光珠 さつまさる池のこらりのねもふら

こく入おらるるまき

後拾秋上 佐上貸らやうらぬらき

いまニモ

拾遺。柳のこらりねとくまら

いしらのあつれさき

いせニ

ひしき

和名抄十 説文云厨 和名久利夜 庖屋也

大政官式廿八九厨家雑物云々

くらや

枕三ノナニ

くらや女のいきき

く素

和泉公集上

いしらのあつれさき

たのまらるるくらや

栗れいが

七十二 ねむろしき物 粟れいご

らぬき

夫木

わづらの大川ねのわづらめさわ
ひさしりふいもといめや

五十二ノ 廿三 小キノ柴ニ刈テ焼ケハカク書ク

和名 歷木 久奴木

万四ノ 廿

赤ツム 廿三

さわ川の霧のつきの小歴はみ川を
うのわづらもいそえつたきし
秋らむとてぬ

くろ 暮

朗詠 秋 暮

ききも自鳴るね せつる小歴の心
よなき葉の声のゆるや林ハくしん

因 推上 柿の皮

くれしきつる

きき能のきのお糸くわて山
らねとてききし

舟舟集

日月始 流の白糸しつらまきしん

日

五月中とてまきつらつ川一糸
かうや夏のくきしん

後撰 巻二

な余たた 名めしつらつ川

さねつらつ川

ら

六帖之

いもの海のちひろくあはくしん
なつとてやまみんわつら

新神皇正統記 九 教光年滿七十蓋是人臣懸車之齡也

三代實錄 四十七 遍昭上表云云 當於扶杖之年猶有

懸車之禮

夫本 卅三 七十はぬてじうしうのりい

まうりてふあう 後形お長

うしうれハなとさうさふひそれけせ

あしうさひり

漢書列傳 四十一 薛廣德字子方 後乞骸骨賜安

車 駟馬黃金 六十斤 を其安也

礼記 七十而懸車

くろまのしりしり 一の車はくろしりしりしりしり

後形 二卷

うしうれハち終かまうしりしりしり

しりしりしりしりしりしりしりしりしり

まうりてふあう 後形お長

くろまのしりしり

卅十四 小形は車のしりしりしりしりしりしり

むしりしりしりしり

不もはた 一つちもむしりしりしりしりしりしり

のひめれしりしりしりしりしりしりしりしり

まうりてふあう 後形お長

くろまのしりしり

二二

車とてりてしりしりしりしりしりしりしり

れはさあんのりしりしりしりしりしりしり

まうりてふあう 後形お長

一八ノ十
とりたかりしきれわたりあはれは
大まげけさやしよ人のこまや
よくらまじきなり

くらまじき

ヤトリキ 十二
あや 廿四
ゆかをいしあきひねりや
くらまじきひかこもふさうめさ
うき

くらまじき

カケニ
おしきしとのしの中あは
まじきいさなは

くらまじき

まじき 廿一
くらまじきの申しわたり

くらま

まじき 廿六
浪の西のまじきさしひら

わき

口十六ノ 廿四
お村のまじきとまじき
くらまじきいあさ

万四 廿三
おまじきいあさ

くらまじきいあさ

まじき 廿一
わらわつやとおまじきいあさ

めいあさいあさ

くらま

白文 六上
下臨不側之淵自眩クルキテ手足掉アユク

字活九ノ一
玉莖トヲレタル
け男くらまじきいあさ

らめい

口九ノ三
け女曉たしきくらまじきいあさ

きし海とちりしきしやハ

口四

口あふくろくろくし海とちりしきし

口六

いんる目のうらみみ海とちりしきし

口七

くろくし海とちりしきし

くろくしきさ

口十

若瀬

回廊

平家一 廿七

ハま子のまはまきくろくし海とちりしきし

くろくし

口十一

あふくろくろくし海とちりしきし

口十二

くろくし海とちりしきし

口十三

くろくし海とちりしきし

口十四

くろくし海とちりしきし

口十五

くろくし海とちりしきし

口十六

くろくし海とちりしきし

口十七

くろくし海とちりしきし

えきのもめをさしやまひー
さしやまひー
つたなまよ 女ももひしやあ
いんあまーくーしーあま

白雲 廿三

あふらたのさあもゆあ
んやらんさくーしーあ
まひしー
さあひまのせんがひつ
りうたあてあま
くーららあ

燕糸 三

修非 廿一

一戸二 四十四

山さあらあ
さあひしーくーしーあ
いんあまーくーしーあ

万九 四十四

万八 廿七

赤友

いんあまーくーしーあ
さあひしーくーしーあ
せーあまーくーしーあ

古意一

あまーくーしーあ
いんあまーくーしーあ

くまけ

相七

いんあまーくーしーあ

くまき

夕六 四十一

くまきあまーくーしーあ

くまき海

夕六

夕六 自注

いんあまーくーしーあ
あまーくーしーあ

合巻
わらわの御いさぎよき御あはれを
くさし海とらふらむらん

カ十四
うらうらうとくさしむらさき
もつしききりん

衣ニ
まはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはる

ウスツモ
サ
人しつらうまらうまらうまらう
ひまらうまらうまらうまらう

官人
廿九
うのはらうの官人くらうたをさる

カ十九
あはれうらうまらうまらうまらう

七十八
須ナ
まらうまらうまらうまらう

カ十七
カ十七
まらうまらうまらうまらう

カ十五
岷江入楚よ六位を官の人を討者
とら

カ八
かた
かたはらうまらうまらうまらう
かたはらうまらうまらうまらう

舟

方

若

一

紅糸丸舟のりて登船のりたる
よん是等方舟は宗博の法に六本と云
なれハ中音のりして是のりたる

く

以下

少ぬらんゆゑとせんと思ひ多

落

四

よりし知らて軽くて是業
一の法と人もの法と云

宗の法

以下

うらうらものしめと云
おんもさうらうらうら

親

名

せんかきりてせん

名

けんかきりてせん

せんかきりてせん
せんかきりてせん

名

せんかきりてせん

願文

後

一の法文とせん

せんかきりてせん
せんかきりてせん

名

せんかきりてせん

せんかきりてせん

名

せんかきりてせん

新

わがやうとのまゝにわけてまゝに今かきや還拜
わがやうとまゝにわけてまゝに今かきや還拜

さし分

字一廿

まゝにわけてまゝにわけてまゝにわけてまゝにわけて

さし分

奈のふよまゝにわけてまゝにわけてまゝにわけて

つしく 廿九

岬河のち國を英男れこのまゝにわけて

まゝにわけてまゝにわけてまゝにわけてまゝにわけて

ち後二

定表の世友の代はまゝにわけてまゝにわけて

くらゐとえまつめまゝにわけてまゝにわけて

明月記

赤福二年四月六日 古人のまゝに

火急

白文 廿七ノ十三

火急 歡 娛 慎 勿 遲 服 者 老 病

活計

白文 廿七ノ十二

偶吟二首 活計 縦 貧 長 淨 潔

くらゐとえまつめ

白文 廿七

頼とるんけりものかたはるわ

よけつとていんてくわくハ表原の

傳やいふ

文粹 七十三

以荒涼之空語磨先儒之明文

盛衰 十九

文章かくとあつてあはさるハいのりよ

うろひららるる物故よまゝにわけて

そのまゝにわけてまゝにわけてまゝにわけて

ほいせん

口廿七ノ十

殿弱の商人は島帽子をかくの人のまゝに

もはつとる所をわけてまゝにわけてまゝにわけて

ゆきまの原のふりしんハ

そふあ 巻のふいかり 断 巻の原のふりしんハ

巻の原のふりしんハ

横帯れ五の穴ハいささかいさか

そふあ 法入いささかちて中ふいさか

罪をさしひらけり

は清妙ニ 帝王之位荒涼不可避

天徳秋合 右 年をいささか

今ハいささか

右 秋ハいささか

文辭 七八 帝徳之意其義不見文之荒涼不知 意處

十訓抄 八二 今あつちもわりあつち

いささかハいささか

りしんハ巻の原のふりしんハ

そふあ 九二 昔はいささか

ハいささか

いささか

大名小名あつち

いささか

ち後 四 昔はあつち

つれハたつち

いささか

いささか

こゝろ

つま 五十九歳 堀川のお園ハ英男あつち

いささか

荒涼

古事談 公忠并頼滅歴三月蘇生古く 疾喜主願以荒涼也
徳家子 二 執人更荒涼不可歎歎

くわ

夕々 幸一 いよのんえんがつかつげらけよるまの
くわんめくききしんしんきききき
おん 系よりくわんしはよんけんあもあもあも
ちよん下三 くわんくわん

わうし川のわんわんわんわんわんわん
赤心之 母ハおんれきあめくわんわんわんわんわん
百十九 卅六 わんわんわんわんわんわんわんわんわん
よんぬめり

くわ

四十二

はせのりくわんわんわんわんわんわんわんわんわん
んわんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

くわ

後け 幸四 系
ウ原林 十一十九 中のくわんわんわんわんわんわんわん
ヲトメ 四十七 わんわんわんわんわんわんわんわんわん

うら

クワ 幸七 うてきめ付くわんわんわんわんわんわん

くわ

イセ物 幸八 系
まはるは啼てきぬとやうけ
くわんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

夫成 幸七 ちよんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

や 亥 三 辰

芳丹集

うは園よこさうつるよのこ漢よめねや
山後のかさうつるは暮のうらまのよと
おしよるれ

古 亥 一

あまきめたまはかそまよるれつうの
おしよるれ

亥 十七

こしあまのよのそとひかきつれ
こしよるれ

神代紀

亥子田祝五

四十一 摧仗莫不和順
病はうそとのそまのうらまのよの
まをそと神よるれ

亥 十六 廿二

虎とさるれ
せのそとまを
おしよるれ

亥 廿五

こしよるれ
はのそとまを
のうらまのよ

亥 廿七

今ハうらまのよ
とまをそと

亥 廿九

おしよるれ
あまのよ

亥 卅二

あまのよ
おしよるれ

くわー

夕魚 五十二

うすれくわー
さるさるさるさるさるさる
くわー

席巻六

け家のわんわんわんわん
ねよりわんわんわんわんわん
ひびきわんわん

くわー

控集抄

わんわんわんわんわんわん
よわんわんわん

くわー

サカキ

廿三

わんわんわんわんわんわん

知

わんわんわんわんわんわん
わんわんわんわんわんわん

くわー

アツマヤ

六十八

目らわんわんわんわん
わんわんわんわんわんわん
わんわんわんわん

くわー

拾五

わんわんわんわんわんわん
わんわんわんわんわんわん

拾七

わんわんわんわんわんわん
わんわんわんわんわんわん

明

わんわんわんわんわんわん
わんわんわんわんわんわん

くらげ

夕キリ

いづれか人のたつたつたのさめ
若 ひとのさみよつていふる名は
くらげまゝなまじとていふやう
さびさうりあると

もろ

早口

幾ハ尾指のけつり多う成き
たをきりてきりて

松 意一

いづれか 大井川くらげの
ミカド様 くらげの人もさび
うらぐら

口 兼秋

うのふ集

たまふまじり

ゆを月くらげとくらげをさうくらげ

くらげ

松 意一

サ

よのさうりていふくらげのさび

物 十二

いづれか くらげの人もさび
くらげの人もさび

松 意一

いづれか くらげの人もさび

辰の月 八

くらげの人もさび
け牛いづれか くらげの人もさび

くらげの人もさび

松 意一

くらげの人もさび

くらげ 隆季

くらげの本

抄巻五 廿

新載 五二〇

夫及 廿六 大井川ぬきまふまじい

あまのくねまふつそふい

しつ集 三 大井川くねくね人のあま

形集 下三 谷ららと松山川のあま

まのささくくねのさわりめ 小松屋

はしきのあまあまならまふ

川のくねくねはく目まふ

内蔵寮 廿一 檜標 一村

内匠寮 九 檜標 六 七十五村

くね

くねくねのあまあまをまふ

あまあまのあま

くねのいぬ

ち後 八 あまあまのあまあま

あまあまのあまあま

あまあまのあまあま

くねのいぬ

修右 春 二 人のあまあま

あまあまのあまあま

あまあまのあまあま

くねのいぬ

あまあまのあまあま

あはれいらのつらきとわすれくらぬ

まのりく人しむるしむるしむる

わが身の上はさかしくあはれいらのつらきとわすれくらぬ

口下 きりぎりすまの命をいれ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

けむる傷 けむる けむるのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれ

五代帝王物語

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれい

右非記

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

くはれいらのつらきとわすれくらぬ

夫亦 廿三

きつてれハめりあひしを月ハとらま

くれ

キヤ^{十二} 日とさひとあてりしうくれり

おとしけりめたり

くれの秋

拾秋 くれの秋 空をせしめてしる

くらふりくさ

くれけ

ついで^六 くれんくあかきへ井を

ひししは後よあれたは折の春

度のうじしうてえらまらるる

4. じりり

くれ方

ミツクシ 日くれ方いりりり

ふふ 尺修成 さしなまをうり

の山のわひりらのくれさけ

くれつ

七 産命 養 夫 海をくまらつ

宮ハこのくれのうらりなやま

しめひら

堀次 ち房 ありにくれうらひ

しめひらうらひのけり

くれの秋

まじり感分 けりし意つてまをくれの

おもひけふのこみ

和名抄 懐香 一名懐芸 和名 くれの秋

らひ

津代上 授其履

皆と

は 早 四方 何後ヲ井テマニル 二ツヨのまん
れハ字ノまきぬハ二ツヨのまきぬ
うしきしやゆりくらくらとまきぬ
うハ快き人のちや一ツヨのまきぬ
まきぬ

らひろ

五 海氏の太納言口長ふサリあひぬし
うしきまきりてらつろくおもひ
くしきくまきりてらつろくおもひ

五ノ七

八海ノ才 せしめしつる人もがーサリ
ろくろつろくうしきまきりてらつろくおもひ
ろくろつろくうしきまきりてらつろくおもひ

五ノ六 らつろくうしきまきりてらつろくおもひ
ろくろつろくうしきまきりてらつろくおもひ

五ノ五 大井河原ろくまきりてらつろくおもひ
ろくろつろくうしきまきりてらつろくおもひ

五ノ四 らつろくうしきまきりてらつろくおもひ
ろくろつろくうしきまきりてらつろくおもひ

きく

ワナ上二十 野の歌をきく

盛衰 かめハ細身れをきく

父いふあまひのこころをきく

口ナニ 入りの心もきく

くつろく しかさきせいのあまき

地一サニ みよのこころをきく

カケ一車ニ ころもきく

くつろく

八十九 ころもきく

ササキ 廿八 ころもきく

お茶 廿七 ころもきく

おツム 二十 ころもきく

キリッホ 十三 ころもきく

下条 恋男子 名キク 可多知久可多

くら

拾物名

言向草春

神あひのいじられや

くらしんきつこの川れおのめさる

スマ

あめあふついちあくらつれてや

スマ

ウキ

テサハ 山くらつれあくらつたふれた

くら

口

くらんも若き

口十九

くらつんものやれつひふ

口

くらつんものやれつひふ

くらつんものやれつひふ

後難三

くらつんものやれつひふ

くらつんものやれつひふ

ヲロメ

五十二

地山もひんりあつたふれ

くら

拾物名

春 神あひの

くら

由原四

おれついちあくらつたふれ

由原

ついちあくらつたふれ

狭原上

ついちあくらつたふれ

くらつんものやれつひふ

くらつんものやれつひふ

松原十九

くらつんものやれつひふ

くらつんものやれつひふ

くら

拾物名

くらつんものやれつひふ

くらねりね

五俣抄

口ねりねのうらむら
のきりしんらふのきりしんらふ
は六男れくらうらむら
のきりしんらふ

くらねりね

カケウ日記

くらねりね
のきりしんらふ
のきりしんらふ

くらねりね

ウ原抄

くらねりね
のきりしんらふ
のきりしんらふ

くらねりね

達十九

くらねりね
のきりしんらふ
のきりしんらふ

くらねりね

四十五

くらねりね
のきりしんらふ
のきりしんらふ

くらねりね

淡二廿七

くらねりね
のきりしんらふ
のきりしんらふ

花巻里五

くらねりね
のきりしんらふ
のきりしんらふ

くらねりね

大庄百番家合

くらねりね
のきりしんらふ
のきりしんらふ

かめれハふ人ハ...
細ハ...
...

くらを

タツル

...

くらを

石房

...

カクニ

...

彦久保

...

くらを

東十

...

東四十二

...

横三上廿七

...

くらを

...

...

彦久保

...

菊 上ノ一門酒 花もあさ始々わさくつものぞ
らうしん ちたあの一と始々くわせ
けしや

クラ 上ノ一十八 まひらく

七 五十爪 あらうくさみすく男女の

のいりうきしるしん

古子能 上ノ 四十三 然欲ぬ力競

後撰 五二 きみとあまのうさくらうつてい

のかりえいあや 我やわあ

夫亦 廿六 つるあれいのちらくのからよと

きみとあまのうさくら

後撰 五三 我やあのおんえもあまのうと

のあまのうと

くくく

後撰 五 女れいらくくくくわくをのひく

あはれいらくくくくくくわく

て男のつうく

くく入 相五ノ二

井原抄 水徳交合 妙海野 定家 ぬむのうれ

柳のえとあやあられあひのうらうく

や

柳のえとあやあられあひのうらうく

あひのうらうく

せせ 五 くるくくくくくくくくく

きくくくくくくくくく

くく馬

も六 かのふたりせれあしあはし
位よりして人々あり

位より

花山 サ 花の位はつてふ
よりの位はつたまは
しう

位より

月より ねいふとてふ
あつた位はつたまは
しうの位はつたまは
しうの位はつたまは
しうの位はつたまは

位より

夜より

父の位はつたまは
しうの位はつたまは
しうの位はつたまは
しうの位はつたまは

サより

あつた位はつたまは
しうの位はつたまは
しうの位はつたまは

花より

あつた位はつたまは
しうの位はつたまは
しうの位はつたまは

位より

スミ たいがの
あつた位はつたまは
しうの位はつたまは

五 痛ふまを 修めく 一 ちり 一 ちり
ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

く
く
く

二 九 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

く
く
く

三 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

く
く
く

余所

スマ 十 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

く
く
く

六 尺 蓮 花 序 日 月 光 月 の ちり ちり ちり ちり

福の倉所

七 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

く
く
く

八 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

く
く
く

九 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

く
く
く

十 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

く
く
く

十一 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

く
く
く

拾遺 和歌式子 くらんぼりくらんぼり

のしほふてをふのしほ

中 十二 仏のウチに今人のくまの

くらんぼりくらんぼり

くらめ

古ゆき くらんぼりくらんぼり

くらんぼりくらんぼり

くらんぼり

くら

葵 十七 くらんぼりくらんぼり

そ 大抵 くらんぼりくらんぼり

くらんぼり

文解 八 くらんぼりくらんぼり

くらんぼり

かれらき

浮七 志ん及れ南知もよも火かれららへん

くらんぼり

くら

帯卅之 くらんぼり

食

拾物名ヨリ人レテス 身とてや山よ入一わんぱ

くらんぼりくらんぼり

また くらんぼりくらんぼり

一酒とくらんぼり

夕暮 二十四 くらんぼりくらんぼり

くらんぼり

くし

少翁 執工 望居を定子 いりりてさび方とら

くしりあふまきのまらふ

たてえ一 くりしりしりまのまのひん

つらきまをねん

わあやま上 したるくくあはまのまのひん

あしちちちち

年々十六 きりあまらくくあ

字舟 幸一 けけあのくくくくくくくくくく

くし

洞下 報下 公任 けけくくくくくくくくくくくくくく

とゆる林のまの目

百十一 きのあまあがくくくくとまのくれはくあはく

けけくくく

洞下 志上 きのひくわあかんくくくく

くくくくくくくくくく

たかまはかいせへん まのまのくくくく

くし

大 報上 けけくくくくくくくくくくくくくく

くくくくく

二二 くのくくくくくくくくくくくくくく

くくくくく

組

拾物名 聖とくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

カッホ

お前公集上 池ぬけて泉とつゝめハ流すきしき
しとあまの人のくむめく

くむ ひとしむ

映りり幸に姉弟のそとハ程さうらいたく
ひしや月島も かしや中分さき

くむくノあまきく かしや

まふ一 西行とんきし 神さおのりさく
まふいしんくまぬめ

くむくけて

夫亦九信集 系たよ 家さく 今もさく 家け
林のりさく

くむ

クラ中一 かしや かしや かしや かしや
まふいし

クニタイ 名中六 かしや かしや かしや かしや
裾帯いれ かしや

郡司

修仁下也 文武二年三月庚午任諸國郡司

屈 クンジ クンジノあへ知と知

くむくづき

アケキ 七十九 あまのりさく かしや かしや
あまのりさく かしや かしや かしや
かしや かしや かしや かしや

くむくづき

付 系上九 かしや ひしや かしや かしや
かしや かしや かしや かしや

ついでめのさし

くつとめた

マハハサ
ウラニナ

はむんつらつとあはれとてさし
ちかともま枝とわささささつ
く

く

六下 木の葉もかすれあはれ
あれの枝もあはれ

古抄下 十一平 ふうふうの津代もきうは立田川

あめしゝ象のゆれあはれ
ゆるゆると

あさひなけさひや旅のささ川

あさひなけさひや旅のささ川

あさひなけさひや旅のささ川

あさひなけさひや旅のささ川

あさひなけさひや旅のささ川

く

景行記ニ許官此云區玖利能弥椰

合意兼上

建仁元年九月 十五夜分合源後系極屋

建仁元年九月 十五夜分合源後系極屋

建仁元年九月 十五夜分合源後系極屋

建仁元年九月 十五夜分合源後系極屋

建仁元年九月 十五夜分合源後系極屋

建仁元年九月 十五夜分合源後系極屋

建仁元年九月 十五夜分合源後系極屋

建仁元年九月 十五夜分合源後系極屋

建仁元年九月 十五夜分合源後系極屋

嬖之餘自献千金繡服錦衣金劍鈿匣之具莫不
異有之

くひ

二十九 夕久 廿五 ころはひりるまねくく
五十七 暮 幸 ひとえれほそとひくく

かのいつえ 十三 ちち後いささきさきひてくのか
先んてきつちみか

くひ

地八ニ ころをき物 花子のき 秋夜の虫かきく

くひもいさく

く ① ② ③ ④
いさく 部 油く 部 ⑤ 部 ⑥ 部

くめ

クニ下四十三 大おおつ ころあひりてあはるの
くめ

く

クニ上ノ三 上れ打くせれあき 長ぬいし
のいひてわかるときく けしき
おくく ころあひりてあはる

くめ

クニ上ノ一六 係系父の中油ののやうにあはるくめ
ころあひりてあはる

く

く ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
く ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

修行食物

修んて 経佛 しくすささしすしーまらんを

しーしーいけりしん

たもをさる人河 いぬるさるさるまはゆましり

りうしん年しーもらて しる音りしん

おもえのそてき

以上二 のちねけさるとしすしー六のまは

のうへしすとあしーて年ほまかひり

けりぬ

サワラヒおりのい つしーれしーきさるいれて是ハ

つしーのしすしーてゆるんひやりし

あまのり

三 けは修りぬとぬとをけきしん

イホヌレ 天人あふりりて年しーしすしーし

東ヤ廿二 えいしんりきしん人とのしめひて後

しききぬよるひんをさしーきまらぬ

そひぬらる

ち和お倍 くのしを後よのそんと契んるるし

うさるしーいしほしーのそ

ホツムサ 三つしんひなしーちぬましーふあしん

思ひしんもやひしん

く

うしんさくしーなふりしんやあしん

さうしんていうしん

万三早きか 三三ーしんをぬとぬてりし後たれハ

油のしぬるしんは井のお

天地より一なるの 美事なり 今こそあてし

きりしんのかれあふたあふちやうけ

いんせ

世のそとにありし 新嘉坡中 山よりうき世いん

ちもふくくしんせしん 芳うしん

くやし 石花中 伊麻叙久夜斯岐

常し くるしきくしん おかきあふ

美事 くるしきくしん

あふちのそとにありし

あふちのそとにありし

あふちのそとにありし

あふちのそとにありし

大北が 万十上 廿二 武アかのまいたけあふち

あふちのそとにありし

あふちのそとにありし

あふちのそとにありし

あふちのそとにありし

あふちのそとにありし

くら

ワケ多テあふちにかかホト心 白ノ一ニ 評スル寸

あの内いし 是事ニ 是れあふちのそとにありし

あふちのそとにありし

あふちのそとにありし

くら

思ひくはるるか

あふちのそとにありし

くさくさ

かたしきいんさくじきんぎょり

五十二

きんぎょりいんさくじきんぎょり

五十二

きんぎょりいんさくじきんぎょり
きんぎょりいんさくじきんぎょり

くさくさ

五十二

きんぎょりいんさくじきんぎょり

五十二

きんぎょりいんさくじきんぎょり
きんぎょりいんさくじきんぎょり

五十二

きんぎょりいんさくじきんぎょり

五十二

きんぎょりいんさくじきんぎょり

五十二

きんぎょりいんさくじきんぎょり
きんぎょりいんさくじきんぎょり

五十二

きんぎょりいんさくじきんぎょり

くさくさ

五十二

きんぎょりいんさくじきんぎょり
きんぎょりいんさくじきんぎょり

五十二

きんぎょりいんさくじきんぎょり

くさり

た教 子

ひふれハおぬの長ひのこゝろ
しよちめつちかひ
こもふ 破も茶といえり
ももちんちのつやふふひ
じふら くらんしめ
おれーしめーのゆえれのくさ
ひまふひゆま

ま分 陸奥

ま かりてハくさくさん かん
しん 常ーしん

くさりやひめ

ま分 十二

林のむらととあし
くさりやひめ あれしん

けお利右衛門云右とさうや 娘の口をばけり
けはういさむさのこしんあめ
まーしんしん 久國土出きて山とむし
山川海とむままとひり けはのちやらの
まのたやのひめ かんハなるねしん
ひめしんしん けつしん

くさり

字鏡

鐵

伊利久作礼利

くさり女

ま分 十二

ゆめさのくさり女は
るりのゆめさしん 免をけめ
しんしん けえしん
くさりハ

茶うれ

達 廿二 うら茶うれはよきもくしーのひたるは月
のめたるもおろくあひ

茶うれ

美 廿四 茶うれのまうらまのらるまてー

茶のたうら

和 やうらたてうーまつこあきかぶ
茶のたうらあきかぶ
ん地ーて

茶うら

大 小 廿二 衣まね着 茶うらーあめらるあかあ
うけりまかあめーのたのむあか
六百番家合指燈 如房しし林あかあめあか

茶うら

茶うらひらうらうらるのあかあ
あかあ
あかあ
あかあ

茶のうら

廿五 廿二 茶のうらうらうらあかあ
うらうら

茶のひら

茶 伊勢の茶のひらあけあかあ
うらうら

後居振 尺敷 茶のうらうらあかあ
うらうら
万村上 廿二 林のうらあかあ

草子

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子の枕

夫木十二

草子うしれ

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子うしれ

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

草子にふれぬるは

正徳式 浮世に 茶の力キハモロトヤメテ云々

茶のまじり

まじり 今も茶のまじりてあり

茶のまじり

非七 火の中を焚きて

茶のまじり

わあ

茶のまじり

お新集 水の中のぬるぬる

わあ

茶のまじり

この世のまじり

わあ

茶のまじり

わあ

茶のまじり

わあ

茶のまじり

わあ

茶のまじり

わあ

茶のまじり

わあ

茶のまじり

わあ

茶のまじり

わあ

茶のまじり

文科 冥途もあまのりく海とくさるる

~~~~~

徳之島 十一十六 暮とつさくらきあつさーとて

世に廿八 抄の奈 寺 設神主座同門西針貫の内

泉屋松原 ありつさくらさるるまきのあき

そとへらくさるる

ウラノコト せしりくさるるさるるさるる

去来 十一 隆源 島の人さるるさるるさるる川中の

園のらさるるさるるさるるさるる

教本 舟よりわたりたさるるさるるさるる

舟にさるるさるるさるるさるるさるる

~~~~~

くさるる

刊六二 新益 山つらつらつさるる

りらさるるさるるさるるさるるさるる

くさるる

うす物 ありさるるさるるさるるさるる

~~~~~

維平 経 五 同 疾 亦 一 津 相

くさるる

下廿四 いささるるさるるさるるさるる

~~~~~

下二 廿四 橋とさるるさるるさるるさるる

のちさるるさるるさるるさるる

下三 廿九 ありさるるさるるさるるさるる

~~~~~











きよけのちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり  
きよけのちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり  
きよけのちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり

くらませ

系左のちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり  
きよけのちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり  
きよけのちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり

くらま

くらま くらま くらま くらま くらま くらま

天川ちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり  
きよけのちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり  
きよけのちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり

ちりり ちりり ちりり ちりり ちりり ちりり  
よけのちりりひりのちりり  
きよけのちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり  
きよけのちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり

くらま くらま くらま くらま くらま くらま  
よけのちりりひりのちりり  
きよけのちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり  
きよけのちりりひりのちりり  
よけのちりりひりのちりり



ろ出 十に

あつらひのくまらりたるかきり  
しつゝあはれなきことよ

ク

スサハ

ふまやのまはたりしきりもるも  
わづらふこと

句詩 四の段 口詩 ち

手あめ

肝文巻 さゆらふくしとそくし  
きくしの清きハ十三のまらふあ

ほろ所まらしきりもるもの  
あつらひもまらきり

折

白文 上ノ巻

各折其手

孔子 子クニ

クのいひ

子クニ 廿三

クのいひをいひて  
おろしあつらひをいひ

画ニ

は横に筆のうらうらと  
いふおまらうらと

後 下サセ

指のまのせれあつらひ  
かきり

ク

ワカ下 九十六

いひあつらひのなみり  
あつらひをいひ

ク

みくまにケ

拾 物

あつらひのうらうら  
あつらひをいひ







く

クラ

何ふ事も大くはなれり

ワ十一

昔よりものなるはれり

達 六

わりのなるはれり

後 六

わりのなるはれり

く

酒 別

水 録

わりのなるはれり

和 三

わりのなるはれり

水 十 四

わりのなるはれり

日 十 五

わりのなるはれり

多 上 字 六

わりのなるはれり

ク 二 中 十 八

わりのなるはれり

ク 二 中 廿 五

わりのなるはれり

ク 二 上 八 十 三

わりのなるはれり



大ねふかりてかきぬりてはるる

くらゑち

用 くの部にけし

くらゑる

持

鑷

字鏡

釧

久自利

まきつら

るれ目玉とわらわら

大木サニ

酒川やーッ

らん

くらゑ

花

玉のき せ かりー

のれ

くらゑ

拾遺抄下末廿九丁 山會日

ナエ くらゑ

ウ拾遺抄

北代事 上廿四

頸

帝四十六 だのり

和名抄 二領頸也頸 和名久比 頸莖也

のー

くらゑる

天武元 大友皇子走無所入乃還 隱山前以自

縊焉

赤代元上

縊殺



くひて

くひしめ

同上、三十五

あつたのちいさきくひくあたるをわく  
まのちいさきくひくあたるをわく  
ま

くひか

お名成り集

上

まのあはさまのくひく

くひく人たのめあつたくひく

お名成り十八

壺

お名成り

漢語抄古水雞

くひし

同上、八十二

くひくくひくくひく

くひか

お名成り十三

刑罰具

壺

日本記私記

久比加

同上、十八

あつたのちいさきくひく

くひくくひくくひく

同上、十九

あつたのちいさきくひく

くひくくひくくひく

同上、二十

あつたのちいさきくひく

くひくくひく

同上、二十一

臣物池下力中

くひめ

同上、二十二

あつたのちいさきくひく

くひくくひくくひく

あつたのちいさきくひく















うらみ 口七郎四郎 ちんちんのりつておこる

やうも 口口 ちんちんのりつておこるのりつておこる

口 寄蓮 ちんちんのりつておこるのりつておこる

あつち ちんちんのりつておこるのりつておこる

その夢 夫は廿六 ちんちんのりつておこるのりつておこる

ちんちん

後 ちんちんのりつておこるのりつておこる

夜十六 ちんちんのりつておこるのりつておこる

か ちんちんのりつておこるのりつておこる

か ちんちんのりつておこるのりつておこる

か ちんちんのりつておこるのりつておこる

か ちんちんのりつておこるのりつておこる

か ちんちんのりつておこるのりつておこる

ちんちん







くものつゝ

夫五

後雨 けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

夫六

やの早し

夫八

秋葉 けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

やれいふし

夫四

野光 けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

やのこを

夫九

有家 夕立 けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

や

さるきひ

夫六

有家 拾遺 けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

やのうらま

夫九

風 けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

やうれ

夫三

秋の月 けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

夫三

命婦 乳母 けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき



ついにさあつる月ハあつた

きつていつか

わが世ア

ついにさあつる月ハあつた  
ついでにさあつる月ハあつた

きつていつか

わが世ア

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

ついでにさあつる月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

ついにさあつる月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

ついにさあつる月ハあつた

雲のうらみ

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

きつていつか

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

ついにさあつる月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

ついにさあつる月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

ついにさあつる月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

月ハあつた

ついでに

さあつる

ついにさあつる月ハあつた



くらりり日

古意四 ちよりのなごまね くらりりのた  
かたつちまのれとあめととくね くらりり  
くらりり

古意五 年とてはれ くらりりくらりり  
くらりりくらりり

古意六 清のちのれと花やうじあをくらりり  
くらりりくらりり

サキ典侍日記

ホツム

古意七

くらりりのきくらりり  
くらりりくらりり

原具銀 くらりりくらりり

くらりり

古意八

ちよりのきくらりり くらりりくらりり  
て月ふも中くらりりくらりり

古意九

くらりりくらりり くらりりくらりり  
くらりり

古意十

くらりりくらりり くらりりくらりり  
くらりりくらりり

くらりり

古意十一

くらりりのきくらりり くらりりくらりり  
くらりりくらりり

古意十二

くらりりくらりり くらりりくらりり  
くらりりくらりり



くまのうしろ

か

ま

は

くまのうしろ

まのうしろ

くまのうしろ

後

まのうしろ

ま

口

まのうしろ

ま

口

まのうしろ

まのうしろ

ま

文徳實錄

有白雲竟天時人謂之旌雲

抄

通光

拾

まのうしろ

拾

まのうしろ

まのうしろ

抄

まのうしろ

まのうしろ

まのうしろ

まのうしろ

作

まのうしろ

まのうしろ

ま

十洲

まのうしろ

まのうしろ

まのうしろ







くものくにけとやうけたらと  
くものくにけとやうけたらと  
くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと  
くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと  
くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと  
くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと  
くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと  
くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと  
くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと  
くものくにけとやうけたらと

くものくにけとやうけたらと



狭三下サ

いふゆゑにさういふうゝうゝうゝうゝうゝ  
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ  
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ  
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ  
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ

小大五集

トリカ

拾玉一

イセ物語

ちの物語 四十二

おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ

後三つ

酒に

ちの物語 四十七

おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ

曰 志願ヤミの辰

おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ  
おもしろいふふふふふふふふふふ











くせもの

ウツ松 半一

いーんくせもの

くせもの

アサ 辛辰

せとうりくおまひるくせもの

口 百辛四辰

いーんくせもの

くせもの

アサ 廿五

いーんくせもの

いーんくせもの

ワカ上 廿六

いーんくせもの

きんくせもの

古く

後立東院定久五年

トクニ

信前 廿

いーんくせもの

きんくせもの

薬もの

ホ 廿

いーんくせもの

いーんくせもの

いーんくせもの

くせもの

枕子

いーんくせもの

半辛辰

いーんくせもの

いーんくせもの

けん

薬子入自鬼門

くせもの







下トリキ 五十七 ながやまをめぐりくまのつらき  
和名村 医 久須之

多色堂 いろはをりうきあつてひ  
きとくまのくまをひらきひら  
い

くまのしん

五 志五 貞文 林林の吹奏くまのんれ  
くまのしん

新修版 五 匡房 林風をりうきあつてひ  
くまのしん

六 隆六上 いろはをりうきあつてひ  
くまのしん

くまのしん

意林記 ハ丁



